

目 次

日本語版への序文

まえがき

第1章 プレカリアート…………… 1

プレカリアートが動き出す (1) / プレカリアートが動き出した (6) / グローバル化の子ども (8) / プレカリアートを定義する (10) / 労働、仕事、遊び、余暇 (19) / プレカリアートの多様性 (20) / プレカリアート化 (25) / プレカリアート化された精神 (27) / 怒り、無規範 (アノミー)、不安、疎外 (29) / おわりに (36)

第2章 プレカリアートが増える理由…………… 39

グローバルな転換 (40) / 労働のフレキシビリティの魅惑——労働の再商品化 (47) / 不安定な失業 (67) / 2008年の金融危機 (73) / 公共部門の空洞化 (76) / 補助金国家——プレカリアートを破滅させるもの (80) / 影の経済 (83) / 社会移動の衰退 (85) / 結論 (86)

第3章 プレカリアートになるのは誰か?…………… 88

女性——生きることの女性化? (89) / 若者——都市の遊牧民 (97) / 高齢者——うめく人とほくそ笑む人 (117) / エスニック・マイノリティ (127) / 「障がい者」——再構築される概念? (128) / 犯罪者化された人々——檻の向こうからやってくるプレカリアート (129) / 結論的な要点 (131)

第4章 移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か?…………… 132

新しいデニズン (137) / 浮動的産業予備軍としてのプレカリアート

(149)／順番待ちから障害物競争へ？ (151)／途上国における安価な労働としての移民たち (153)／労働輸出レジームの形成 (159)／結論的省察 (164)

第5章 労働、仕事、時間圧縮…………… 167

仕事 (work) とは何か？ (169)／第三次的仕事場 (171)／第三次的時間 (172)／労働強化 (173)／労働のための仕事 (175)／第三次的技能 (176)／再生産のための仕事 (180)／若者と「接続性」 (184)／余暇の圧縮 (186)／結論的な要点 (190)

第6章 地獄に至る政治…………… 192

パノプティコン社会 (193)／プレカリアートを「幸せ」にする (206)／セラピー国家 (207)／ワークフェアとコンディショナリティ (209)／プレカリアートを悪魔化する (213)／薄まる民主主義とネオ・ファシズム (215)／結論 (224)

第7章 極楽に至る政治…………… 226

デニズンシップの公正化 (229)／アイデンティティの回復 (231)／教育の救出 (233)／労働だけではなく、仕事を (234)／労働の完全な商品化 (236)／職業の自由 (238)／仕事権 (241)／ワークフェアとコンディショナリティの打倒 (243)／協同的自由——プレカリアートの代理機関 (245)／平等の復活 (250)／ベーシック・インカム (251)／安全保障の再分配 (254)／金融資本の再分配 (258)／自分の時間をコントロールする (261)／コモنزを取り戻す (263)／余暇交付金 (265)／結論 (268)

文献目録

監訳者あとがき

索引

著者・訳者紹介